

校内研究の概要案

学校教育目標

○よく考える子 ○元気な子 ○助け合う子

児童の実態

- ・素直で元気、相手の考えを受け入れることができる児童が多い。
- ・決められたことに前向きに取り組み、最後までやり遂げようとする児童が多い。
- ・話を最後まで聞けなかったり、切り替えに時間が掛かったりする児童が一定数いる。
- ・発言できる子と発言できない子の偏りがあり、自信をもって自分の気持ちや考えを話すことが苦手。

研究主題

自分の考えや気持ちを伝える力の育成
～体育科の学び合いを通して～

目指す児童像

- 自分の気持ちを自分で伝えることができる児童（低学年）
- 自分の考えを分かりやすく説明することができる児童（中学年）
- 自分の考えや気持ちを積極的に伝えることができる児童（高学年）

研究仮説

- ① グループでの話し合い活動を意図的に行うことで、自分の考えを伝える技能や意欲が育まれるだろう。
- ② 考えを可視化することで、共通理解が図りやすくなり、児童の伝え合う力が伸びるだろう。
- ③ 振り返りで、自分自身や友達の成長や変化を理解できるようにすることで、自己理解が深まり、自分の状態を他者に伝える力が育まれるだろう。
- ④ 学習課題の設定を工夫することで、児童の「伝えたい」という意欲につながるだろう。

研究方法

学校全体での取り組み（手立て）

- ◆学習カードの作成・活用。
- ◆振り返りの工夫。
- ◆ICTの活用。
- ◆作戦ボードの活用。
- ◆作戦の選択肢カードの作成・活用。

◆学習課題の設定

- | | |
|-----|---|
| 低学年 | 指導者が設定した課題の中から、「おもしろそう」「楽しそう」だと感じる課題を選ぶ。 |
| 中学年 | 目標を達成するために、自分が「やってみたい」「できるようになりたい」と考えて課題を決める。 |
| 高学年 | 目標達成のための手だてや学習の進め方などを考え、「こうやってみよう」と課題を決める。 |